

今回前期の授業を通して、中国人留学生の二人に実際に自分で授業を行ってみて、やはり日本語を教えるのは難しいなと思いました。一回目から三回目の DVD をもう一度見てみて思ったことは、主に三つあります。

まず一つ目に、授業の時にも先生にアドバイスをもらいましたが、「笑ってしまう癖」についてです。指摘を受けるまでは全然気づかなかったのですが、間が開いてしまったときや緊張している授業の始まり、ごまかそうとしているときなど、私は笑っていました。今、今回の授業のことだけではなく、今までの緊張していた場面などを思い返してみても、笑って自分の緊張をごまかしていたなと思います。人の何倍も緊張してしまう性格なので、余計に笑うことが目立ってしまったと思います。

三回目の授業を行う前に、「笑ってしまうときは学習者と目が合っていないとき」と、横溝先生からアドバイスをいただきました。DVD を見るとまさにその通りでした。視線は学習者と違うところを向いていました。自分的には学習者を見ているつもりだったので驚きました。三回目の授業のときは、学習者の目を見て授業をするというのを目標にしていました。しかし、自分では最大限気を付けていたのですが、また同じことをして DVD を見ながら悲しくなるほどでした。癖はなかなか直すのが難しいものだと思います。

しかし私が笑うことによって、学習者の集中も少しなくなっているように見えました。また授業の雰囲気も壊れているように感じました。集中してしっかり真面目に活動していたのに、次の活動に移る間の少しの準備の時間で、私がおの間を埋めようとして笑ってしまうだけで、今まで作ってきた雰囲気が一瞬で壊れることに気づきました。もし雰囲気が重くなっていて、次の活動は明るくしたいというときは、準備を終えてからその活動の導入や説明などの始まりのときに明るい雰囲気を作るべきだと思いました。そうすれば生徒も集中力も落とさずに、次の活動にスムーズに入れるのではないかと考えました。

これまで笑ってしまうことについて考えてきましたが、笑顔は私のいいところでもあると思います。笑顔になることで授業も自然に明るくなり、学習者が発言しやすい雰囲気を作れます。このように笑顔のメリットもあるので、しっかりといい笑顔とよくない笑顔を使い分けしなければならないと思いました。

二つ目に「うなずきすぎ」だと思いました。学習者が発言しているときやロールプレイ、教科書を読んでいるときなど、ほぼずっとうなずいていました。本当に無意識だったので驚きより、自分が怖くなりました。正解しているときならまだいいですが、間違っているときも、うなずいて聞いていました。これも自分の癖だと思います。間違っているのに隣でうなずかれていたら、学習者は間違いに気づくことが出来ません。また集中しているときに隣でずっとうなずかれたら、集中力もなくなってしまうと思います。日常生活の中でもうなずくのが癖になっていたのでは、この癖もなくさなければならないと思いました。

三つ目に「動きが小さい」と思いました。たとえば音声のイントネーションを教える際に、手を使って上がったり下がったりすることを表現するときなどの動きです。私はほぼ自分の胸くらいの位置で動きは 20cm あるかないかほどしか動いていませんでした。また

手の動きも早く、とても分かりにくいものでした。この動きの小ささについて考えたところ、自分の発音にまだ少し不安があることが原因なのではないかと思いました。不安があることによって、動きは早くなり小さくなります。しっかりとした自信があれば、動きも堂々とできます。動きは大きく早すぎず、遅すぎずということが大事であり、このような動きが、学習者には分かりやすいものです。そのため私もしっかり予習して完璧に準備しようと思いました。

今回改めて自分の授業を見ていて、悲しくなる点が多くありました。笑ってしまうこと、うなずくことなどは癖になっているので、日ごろから気を付けて生活していく必要があると思います。また、授業の前の準備をもっと完璧にしておくべきだと思いました。教える立場として、学習者の前では堂々としなければなりません。しっかりと予習をし、準備を整えることで、自然と動きも大きくなり、緊張も和らぎます。緊張は頑張ってもしてしまいますが、だからこそ緊張をしても忘れないくらい脳に発音などを叩き込ませようと思います。よかった点としてはホワイトボードにはる文字カードなどは見えやすく、きれいに書くことが出来たので良かったです。これからもどのように書けば学習者から見やすいかを考えながら作っていこうと思います。

後期からは **YMCA** での実習が始まります。私はとても緊張してしまうと思うので、そのためにも今からできることを、たとえば癖を直すことなどを頑張ろうと思います。そして後期の実習を楽しく、仲間と一緒に頑張ろうと思います。今回の実習で学んだことを生かし、学習者にとって学びある授業を作れるよう、頑張ります。